



今回の特集では、現代の幼児教育と行事の関係について、磯部先生、すとう先生、石矢先生、林先生に、それぞれの観点からご寄稿を頂いた。

「昔の行事はどうだったんだろう?」とアーカイブズで検索すると、ちょうど六十年前の『幼児の教育』誌(第五十五巻第一号)に、当時の家庭でどのような行事が組まれていたかを調査した結果が報告されている。徳久孝先生(東京・番町幼稚園)が、園における行事教育について考えるために、300家庭を対象に、次の19項目について質問した。括弧内は実施している家庭数である。

①こどもの誕生日(299) ②こどもの日(297) ③節分(275) ④クリスマス(271) ⑤家族の誕生日(270) ⑥七夕(262) ⑦お彼岸(253) ⑧〜⑩おまつり、七五三、ひなまつり(246で同数) ⑪お月見(227) ⑫お盆(226) ⑬母の日(163) ⑭老人の日(84) ⑮虫歯予防デー(83) ⑯父の日(78) ⑰伝染病予防週間(61) ⑱花まつり(58) ⑲復活祭(30)。

「こどもの誕生日」の祝い方としては、「ご馳走をし家族で祝う」が299件中285件と最も多く、今に通じる光景が思い浮かぶが、一方で「贈物をする」のは半数以下の135件、「記念写真を撮る」は22件と、やはり隔世の感もある。「虫歯予防デー」が行事に位置付けられているが、「終戦後、年を追って子供の歯が悪くなっている時に、此の日を機会に歯の診察を受けるとか、歯磨きの習慣を徹底する事が必要」だった。戦後、子どもが甘いものを摂取しやすい環境となり「虫歯」が新しい問題になっていたことがわかる。(H)